

1. 基本情報

- (1) 国名：チュニジア共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：チュニジア北部（メジェルダ川流域）
- (3) 案件名：シディサレム多目的ダム流域総合土砂管理計画（Sidi Salem Multi-Purpose Dam Comprehensive Sedimentation Management Project）
- (4) 計画の要約：

本計画は、チュニジア北部に位置するシディサレム・ダム及び同ダムの下流地域において、排砂バイパスや土砂流入防止堤等を建設することにより、灌漑や生活用水等の利水及び洪水調整のための貯水容量の確保を図り、もって地域住民の生活の安定及び社会経済活動の向上に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

チュニジア共和国（人口約1,140万人、1人当たりGNI 3,690米ドル、2016年）（以下「チュニジア」という。）は、中東、アフリカ及び欧州への玄関口に位置し、地政学的に重要な地域にある。また、国際場裡において緊密な協力関係にある友好国であることに加え、日系企業が約20社進出しているなど、欧州・アフリカ市場を見据えた投資先としても重要な国である。

本計画は、2016年のTICAD VIにおいて我が国が発表した、アフリカに対し約100億ドル（約1兆円）の質の高いインフラ投資を具現化するものである。また、2015年3月の第31回国連防災世界会議（於：仙台）において安倍総理が発表した仙台防災協カイニシアティブにおける防災のためのハード及びソフト支援の方向性（洪水、土砂災害対策等）や、経協インフラ戦略会議（2018年7月）において議論された水セクター（上水、治水）への国際展開の方向性に合致し、その推進に資するものである。

- (2) 当該国における水資源セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

チュニジアは国土の半分が半乾燥地帯に位置し、チュニジア北部に位置する首都チュニスの年平均降水量は約500mm（1991～2010年。出典：農業・水資源・漁業省。世界平均は970mm）と僅少である。また、チュニジアは表流水と地下水を合わせ4,800百万m³/年（出典：農業・水資源・漁業省）の水資源量を有するが、同国では通年で流水を維持する唯一の河川であるメジェルダ川の流域が位置するチュニジア北部に表流水の約8割が集中している。同川の中流にあるシディサレム・ダムは、1981年に供用が開始され、流域面積約1.8万km²、容量約9.8億m³を擁し、利水供給（灌漑及び生活用水）、水力発電及び同地域の洪水調整に貢献する国内最大の多目的ダムである。

しかし、ダム上流から流れ込む土砂により、既に同ダムの計画堆砂容量が満砂し、利水容量・洪水調整容量が減少していることから、同ダムの洪水調整機能の回復及び利水のための貯水池容量の確保は喫緊の課題となっている。また、ダムに対して堆砂対策を実施する際には、ダムの下流に土砂及び洪水流を流す必要があるが、同ダムの下流河川の一部では流下能力が不足していることから、その対策を実施することが不可欠である。

チュニジア政府は2016年11月に発表した国家開発5カ年計画（2016～2020年）にお

ける政策軸のうち、「天然資源と環境保護」において、水保全及び防災を優先課題として掲げている。我が国の対チュニジア共和国国別援助方針（2013年3月）では、重点分野として「持続可能な産業育成」を掲げ、その下で「環境保全・防災」を開発課題としている。なお、メジェルダ川下流域では、同流域における洪水対策機能の強化を図るため、「メジェルダ川洪水対策計画」（円借款）を実施している。

3. 計画概要

(1) 計画概要

① 計画内容

- (ア)土木工事（排砂バイパス，土砂流入防止施設，導流施設，浚渫，河道整備，橋梁の改築等）（国際競争入札）
- (イ)機材調達（テレメーター，濁度観測システム等）
- (ウ)コンサルティング・サービス（詳細設計，調達支援，施工監理，堆砂対策等に係るキャパシティ・ビルディング）（ショート・リスト方式）

② 期待される開発効果：洪水調整、利水容量の増加等のダム機能の回復。

③ 借入人：チュニジア共和国政府

④ 計画実施機関／実施体制：農業・水資源・漁業省

⑤ 他機関との連携・役割分担：特になし。

⑥ 運営／維持管理体制：農業・水資源・漁業省

(2) その他特記事項

- 浚渫土砂を活用した施工技術等の本邦技術活用可能性について協力準備調査で確認予定。
- 水資源セクターでは、主に世銀、アラブ経済社会開発基金、フランス開発庁、ドイツ復興金融公庫等が支援を実施。また、防災セクターでは、ドイツ復興金融公庫がメジェルダ川上流における洪水対策のためのF/S調査を2017年より実施中。
- 本計画は「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月公布）」に掲げる河川・砂防、橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断されるため、環境社会配慮カテゴリBに分類される。
- 本計画は気候変動の影響により近年頻発している洪水や渇水に対応するダムの機能回復に資するものであり、気候変動への適応案件と位置付けられる。
- ジェンダー分類は、GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）に該当するが、調査にてジェンダー主流化ニーズを確認する

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

インドネシア共和国「シパンシハポラス水力発電計画」の事後評価等では、将来的な堆砂対策が必要と見込まれる中で、浚渫や排砂を計画的に実施するためには、貯水池内の堆砂量を把握し、適切に管理すべきとの教訓が得られている。本計画においては、貯水池の堆砂状況と堆砂量を定期的に計測できるよう、コンサルティング・サービスの中で計画的な浚渫及び排砂について検討を行うとともに、本邦技術を活かして貯水池及び貯水池堆砂状況の確認を行うことを想定している。

以上

[別添資料] 地図

シディサレム多目的ダム流域総合土砂管理計画 地図

